

---

# 第19回モニタリング会議 ご説明資料 (2019年4月～6月業績報告)

2019年9月4日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
2. 公共交通利用状況	p.6
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.8
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.9

## 計画と実績の対比（全社PL）

## 全社の事業再生計画第5期（2019年4月～6月）実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数値は、「とさでん交通」と「とさでんトラベル（旅行業）」との合算  
 <2019年4月～2019年6月>

	2019年度	2019/4～6月	計画比 ②÷①	2018/4～6月	前年 同期比
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績②		前年同期 実績	
売上高	5,449	1,521	28%	1,479	103%
売上原価	573	322	56%	233	138%
差引収益	4,876	1,199	25%	1,246	96%
人件費	2,500	603	24%	617	98%
厚生費	294	85	29%	87	98%
動力費	519	101	19%	102	99%
修繕費	292	67	23%	61	110%
物件費	108	20	19%	18	111%
経費	1,000	228	23%	262	87%
諸税	105	18	17%	19	96%
減価償却費	538	125	23%	125	100%
営業費計	5,356	1,247	23%	1,291	97%
営業利益	-479	-48	-	-45	-
営業外収益	56	39	70%	35	111%
営業外費用	62	18	29%	19	95%
経常利益	-485	-27	-	-30	-
特別利益	547	6	1%	4	150%
特別損失		0	-	0	-
税引前当期利益	62	-21	-	-26	-
法人税等	51	0	-	0	-
当期純利益	11	-21	-	-26	-

単位:百万円

## &lt;2019年4月～6月第1四半期の概況&gt;

## ■事業再生計画比※第1四半期につき進捗率25%と比較

- ・売上高、差引収益はほぼ計画をクリア。営業費は軽油単価の低位推移のほか経費、減価償却費などが計画比下振れ推移した営業利益、経常利益ともに赤字であるが、計画を上回る進捗
- 【売上高】1,521百万円となり進捗率28%
- 【売上原価】旅行事業部門の押上により、進捗率56%
- 【差引収益】ほぼ計画どおりの進捗
- 【営業費】軽油単価の計画比低位推移などで進捗率23%
- 【営業利益】△48百万円の赤字であるが計画を上回る進捗
- 【営業外損益】上場株式配当金等により21百万円のプラス
- 【特別損益】運行委託料により6百万円のプラス
- 【当期純利益】第1四半期経過時点で△21百万円の赤字  
→補助金の大半は年度末に計上

## ■対前年同期実績比

- 売上高増加は旅行事業が主要因。差引収益は売上原価増で減少
- 営業費は、人件費・経費を中心に減少
- 営業損益は前年同期比で赤字が微増
- 経常損益・当期損益は営業外収支プラスにより前年比赤字幅縮小

## &lt;経費科目説明&gt;

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等 物件費・・・水道光熱費・備用品等  
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等 諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却  
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・固定資産圧縮損等

## 計画と実績の対比（路線バスPL）

## 路線バス事業の2019年4月～6月実績は、以下のとおりです

## &lt;2019年4月～2019年6月&gt;

	2019年度	2019/4～6月	計画比 ②÷①	2018/4～6月	前年 同期比
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績②		前年同期 実績	
売上高	1,056	241	23%	255	95%
売上原価			-		-
差引収益	1,056	241	23%	255	95%
人件費	737	176	24%	190	93%
厚生費	79	26	33%	26	100%
動力費	184	38	21%	39	97%
修繕費	120	23	19%	25	92%
物件費	29	4	14%	4	100%
経費	164	40	24%	40	100%
諸税	25	6	24%	6	98%
減価償却費	136	30	22%	29	103%
営業費計	1,474	343	23%	359	96%
専属営業損益	-418	-102	-	-104	-
減価償却前専属営業損益	-282	-72	-	-75	-

単位: 百万円

&lt;専属営業損益とは&gt;

✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

## &lt;計画差異要因等&gt;

- ✓ 売上高
  - 2017年4月からのスクール線便数減少による減
  - " 10月からの安芸線移管による減
  - 2018年10月からの土佐市ドラゴンバス移管による減
- ✓ 費用
  - 人件費: 人事制度改正による増、時間外手当増
  - 厚生費: 人件費増、科目計上ルール変更に伴う増
  - 動力費: 軽油単価の計画比低位推移、走行キロの減
  - 修繕費: 減車及び車両更新による減
- ✓ 専属営業損益
  - 収入減少はあるが、費用の減少が上回るため、計画を上回る進捗

## &lt;前年同期差異要因等&gt;

- ✓ 売上高
  - 土佐市ドラゴンバス移管と減キロによる減
- ✓ 費用
  - 人件費: 運転業務数減による時間外手当減
  - 動力費: 走行キロ減による減
  - 修繕費: 車両更新・減車による減
  - 減価償却費: 車両更新による増

&lt;科目計上ルール変更とは&gt;

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

## 計画と実績の対比（軌道PL）

## 軌道事業の2019年4月～6月実績は、以下のとおりです

&lt; 2019年4月～2019年6月 &gt;

	2019年度	2019/4～6月	計画比 ②÷①	2018/4～6月	前年 同期比
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績②		前年同期 実績	
売上高	1,000	256	26%	267	96%
売上原価			-		-
差引収益	1,000	256	26%	267	96%
人件費	562	146	26%	146	100%
厚生費	70	21	30%	21	100%
動力費	77	19	25%	19	100%
修繕費	46	13	28%	10	130%
物件費	22	7	31%	6	117%
経費	60	17	28%	17	100%
諸税	15	2	13%	2	100%
減価償却費	47	11	23%	11	100%
営業費計	901	236	26%	232	102%
専属営業損益	99	20	20%	35	57%
減価償却前専属営業損益	146	31	21%	46	67%

単位: 百万円

## &lt; 計画差異要因等 &gt;

- ✓ 売上高
  - 計画を上回る進捗
- ✓ 費用
  - 人件費: 人事制度改正による増、時間外手当増
  - 厚生費: 人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
  - 経費: ですかシステム更新賃借料、美術館通P&R代替地賃借料等による増
- ✓ 専属営業損益
  - 20百万円の黒字であるが、営業費が計画比高止まり(26%)のため、進捗率は計画を下回る

## &lt; 前年同期差異要因等 &gt;

- ✓ 売上高
  - 現金収入減を主要因とした運送収入減
- ✓ 費用
  - 人件費・厚生費: 前年並み
  - 修繕費: 繰越工事の材料費増
- ✓ 専属営業損益
  - 売上減、費用増による減益

## &lt; 科目計上ルール変更とは &gt;

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

&lt; 専属営業損益とは &gt;

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

路線バスの2019年4月～6月利用状況：運送収入は前年比95%、IC利用客数は前年比93%

- 本表は運送収入のみ  
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位：百万円

	2018/4～6月	2019/4～6月	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期①	3ヶ月 実績②	
運送収入	249	236	95%
①定期全体	49	47	96%
②定期外収入	200	189	95%
うち、現金収入	106	102	96%
うち、SF	97	87	89%

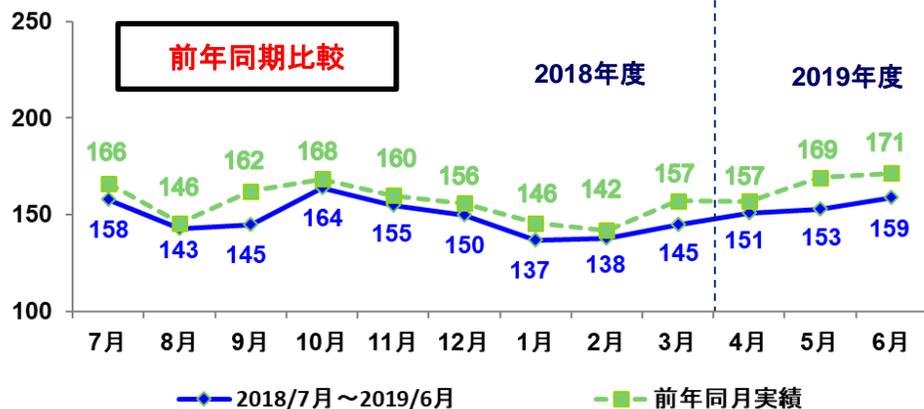
<路線バス収入の増減要因>

- ✓「ダイヤ改正による減キロ」  
2017年10月1日 △4.8%  
2018年10月1日 △8.6%
- ✓昨年度の運送収入から土佐市ドラゴンバスの収入を除いた場合96%

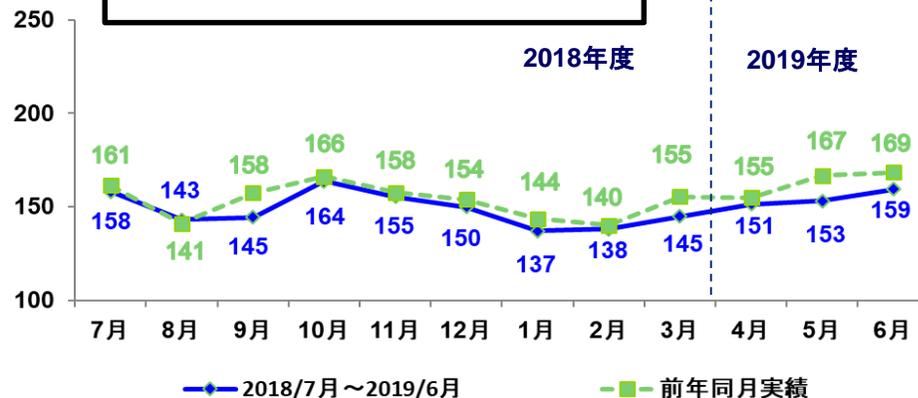
【移管等の影響】 単位：百万円

	R1
土佐市ドラゴンバス	▲3

<利用客数推移> 単位：千人



土佐市ドラゴンバスの影響を除いた比較



<利用客について>

- ✓ 減少要因は、2018年10月の土佐市ドラゴンバスの移管の影響もあり、ICカード利用客数は464千人、前年同期は498千人で93%
- ✓ 前年同期分から、土佐市ドラゴンバス移管を除いた場合では491千人で95%となる

- ・ 利用客数は、ICカード「ですか」に基づいており、現金などを除く
- ・ IC使用率は約60%(利用客数による)

軌道の2019年4月～6月利用状況：運送収入は前年比96%、IC利用客数は前年比96%

- 本表は運送収入のみ  
 広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

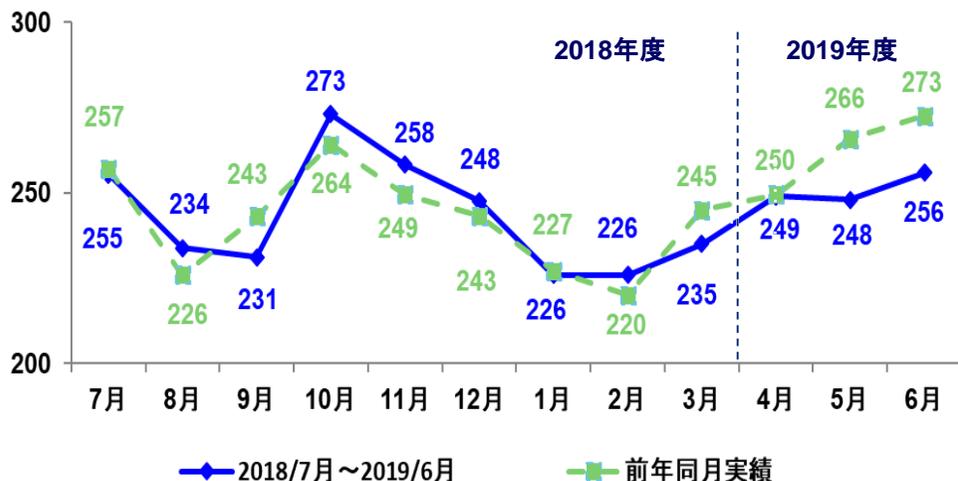
単位：百万円

	2018/4～6月 3ヶ月	2019/4～6月 3ヶ月	前年 同期比 ②÷①
	前年同期①	実績②	
運送収入	240	230	96%
①定期全体	67	67	100%
②定期外収入	174	163	94%
うち、現金収入	115	108	94%
うち、SF	58	55	94%

＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 運送収入は、前年同期比96%
- ✓ 「雨天日」は、2019年4月～6月で前年比▲2日  
 ⇒（雨天日増減：4月+3日、5月▲5日、6月 0日）
- ✓ 雨天日が前年比▲2日となったことなどから、現金収入を中心に運送収入が減少した

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞

- ✓ 対前年同月比、4月～6月毎月すべて減少
- ✓ 3ヵ月累計のICカード利用客数は753千人、前年同期は788千人で96%
- ✓ 減少要因は、主に通勤・通学定期券の利用者減（3ヵ月累計で対前年同期比18千人）
- ✓ なお、定期全体の収入自体は横ばいだが、運休等で利用者数自体が減少した

- 利用客数は、ICカード「ですか」に基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約53%（利用客数による）

## 公共交通取組状況

2019年度、路線バスと軌道の取組施策は以下のとおりです

## 《2019年度 実施施策》

内容	路線バス	軌道
<b>■2019年4月1日～2019年6月末</b>		
1 オリジナルフレーム切手発売 4月	-	○
2 高坂学園生涯大学K組 講演 4月	○	○
3 朝倉待合所供用開始 4月	-	○
4 高知赤十字病院乗り入れ 5月	○	-
5. ローラー活動(長浜) 5月	○	○
6. 車いす対応可能バス停一覧図作成 5月	○	-
7. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
8. 公共交通体験プログラム〈電車とバスで高知をうろちょろ〉 6月	○	○
9. セミナー会員様車庫見学受入 6月	-	○
10. 小学生を対象とした出前授業 6月(2校5クラス 計149名)	○	○
<b>■2019年7月1日以降(参考)</b>		
11 春・夏・冬休み!バスキッズ定期券販売開始 7月～	○	-
12 ツアー旅行者様車庫見学受入 9月	-	○
13 電車で市商祭へGOプロジェクト 9月	-	○
14 小学生を対象とした出前授業 10月(1校)	○	○
15 電車でストフェスへGOプロジェクト 11月	-	○

2019年4月～6月の公共交通に関する設備投資は、以下表のとおりです

【2019年度 設備投資計画実施内容】

単位：百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	96	補助車両(4輛)の購入	86	43	安全安心、利便性向上	補助車両(再生計画分2両+計画終了分2両)購入
		その他	10	2	利便性向上他	ダイヤシステム更新 他購入予定
軌道	118	レール重軌条化工事	20	0	安全安心	大橋通～上町2丁目
		分岐器交換	30	0	安全安心	枅形
		き電線改良	11	0	安全安心	後免線、いの線の一部区間
		電柱建替更新	8	0	安全安心	〃
		その他	49	4	安全安心他	蛍橋駅舎及び宿泊施設、冷房装置1両、ダイヤシステム更新、補助電源装置 他予定
合計	214		49			

■路線バス低床化率 57.48%(令和元年6月末時点) 【路線バス車両数 127輛(空港連絡除く)、うち低床車両 73輛】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位：百万円

		計画0期 15/3半期	計画1期 16/3期	計画2期 17/3期	計画3期 18/3期	計画4期 19/3期	計画5期 20/3期	累計	
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	120	138	183	45	702	99.9%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	116	366	131	4	793	96.6%